

飯田市の自治の課題 評価資料(案)
分担テーマ (大)「市民に関すること」

テーマ (中)	課題の抽出	課題の評価
(1)市民の権利に関すること	・市民の権利(ニーズの多様性をどのように受け止めるか) ・市民の権利と義務を明確にし、政策決定過程への市民の参加を規定する。 ・参加する権利と参加したくない権利をどう見極めるか。権利と義務のアンバランスが目立ってきている。 ・市民の権利は行政の義務になり、双方からの検証が必要。 ・市民参加の財政運営のための情報提供のありかたについてどう謳うか ・地域における政策意思決定機関が不明瞭。縦割り行政の弊害。	★「市民」のとらえ方 ・「市民」の定義を総則で明確にすることが必要 ・条例は「市民」とするか「住民」とするか ● 条例では「市民」に統一する。 ★「市民」の権利について ・市民の権利は、行政が保証するものである ● 政策決定過程への市民参加 (参画) ・政策決定過程が明確となるための情報公開
(2)市民の責務に関すること	・納税の義務(滞納率)と社会的責務(行政と市民の役割) ・今時の若者、あるいは無関心層の動向(興味・人任せ・発言の場) ・義務が伴わない傾向	★「市民」の責務について ・条例・規則を守る、選挙権の行使、環境保全
(3)地域コミュニティ	・自治会未加入(団体自治と住民自治の強化、地域の自立と個の自律) ・地域間格差、コミュニティ機能の低下、人材が育たない。 ・自治が大切と分かっているながら、自治会に加入しない人たちがいる。 ・自治会未加入、地域奉仕、人任せ、都市型と農村型の双方が認め合う ・地域コミュニティといったときの規模は今までは自治会単位だった。もっと小さな単位で考えた方がよい。いわゆる日常生活圏の範囲。 ・自治会が住民自治の担い手となっているか、これまで検証されていない。 ・具体的な自治は地域の基盤が確立してないとなしえない。町内会レベルでの自律が基本である。自治会単位でしか見てこなかったところに欠陥があった。 ・自治会が本来やるべきことが忘れられている(自治の混同、混在)。生活に身近な部分のことを、どこまで自分たちでやるか、自分たち	・「責務」とは「責任」と「義務」 ・自律した市民としての自覚の元に責務を果たす ● 市民の責務は既に網羅されている ★「地域コミュニティ」の定義 ・地域と捉えるか、集団と捉えるか ・「地域」で捉えた場合：豊かな人間関係のある近隣社会 ● 多種・多様な活動が育つ地域コミュニティを目指す ・「集団」で捉えた場合：市民が互いに助け合い、地域の課題に自ら取り組むことを目的に、自主的に形成された集団 ・「地域」のとらえ方には、支所レベル・町内会レベル・隣

	で考えるときに来ている。 ・自治会の抱える大きな問題として、組合未加入がある。組合加入は情報の共有化という点からも自治への第1歩である。未加入の理由にはいろいろあり、一概に問題とすることもできないところがある。組合加入率が低いと言うことは、自治会が地域を代表していないということになる。 ・自治会費等負担金も地域によってアンバランスがある。このことが問題にならないと言うことが問題。 ・地域コミュニティを考えると、任意のグループやNPOをどう考えるか。 ・地域の横のつながりが希薄になってきている。団体間の連絡調整が不十分。 ・形骸化している組織、団体があり、改革の必要性がある。 ・同様の趣旨の各種団体が存在し、それぞれ活動内容が重複している面があり、積極的に役員となり活動したいという人材が不足している。 ・本気になってやる地域は発展していく。これからは地域間の差がでてくる。	組レベルがあり、それぞれの レベルでの活動と自律が必要 ● 条例では「自治会」を使用しない ・行政として、地域コミュニティにどのように関わるか（育成と支援） ・市民として、地域コミュニティにどのように関わるか（市民参加のひとつの方法） ・議会として、地域コミュニティにどのように関わるか（住民意向の把握と支援） ・特色ある地域経営が求められ、必然的に地域間格差が生じる（自己責任・自己決定） ● 地域自治組織の位置付け ・地域コミュニティと捉えるか ● 住民自治の拡充を図る ★「各種団体」の考え方 ・活動が縮小している団体 ・活動が継続している団体 ・今後活動が期待される団体 これらをどのように考えていくか
(4)市民参加		
(5)企業の位置付け	・若い世代や女性が地域活動に地域の意味決定に参加できない、参加したくないと思う背景を考える必要がある。 物理的に時間が無いというわけではなさそう。	
(6)その他	・NPOやボランティア等も含めた住民参加を盛り込む必要があるか ・市民の概念を広く捉える ・市民の権利と義務を明確にし、政策決定過程への市民の参加を規定する。 ・地域の自律がないとまちづくりはできない。地域の自律の前提は「個」の自律にある。 ・個の自立がないと形だけの市民参加になる。従って人づくりに力を入れるべきである。 ・「市民参加」がキーワード。 ・プロセスが大事。一般市民が参画していこうという意識をつくるべき。 ・合意形成を得るためのシステムが不完全である。 ・地域のことに関心を示さない人は、市民であ	★「市民参加」と「市民参画」 ・「政策決定過程への市民の参加」が「参画」 ・「参加」のプロセスが大切 ・「参加」の機会を設ける行政の責務 ・「参加」の機会を前向きに捉えて、自主的に参加する意識を持つ市民の責務（自律した個としての参加） ● 政策決定過程から参加するための、行政の責務と市民の意識改革

	っても住民とは言えないのではないか。 ・民意の反映の仕方が曖昧(市民意識調査) ・住民投票の動き ・地域における企業の位置づけを行い、企業の社会参加を促すことが必要な時代である。 ・地域活動に対する理解を各家庭だけでなく企業も持つ必要がある。人づくりにつながるこのことは企業の社会責任として捉えたい。 ・若者の地域への帰属意識が薄れてきている。 ・市民自治に対しての不信感	★「企業」の参加 ・地域作りに関わっていく時代になった ・「住」で関わるか、「職」で関わるか ● 「市民」と「企業」(事業者)を同等に扱う必要がある ★ 市民参加の多様性 ★ 住民自治の拡充
--	---	--